

平成21年度 学校関係者評価報告

1 実施日時 平成21年9月18日(金) 17:00～

2 参加者

学校側	坂柳 恒夫 校長	河合 智仁 副校長
	中村 僚志 教頭	加藤 嘉一 主幹教諭
	永井 隆 校務主任	山田 昌弘 研究主任

学校関係者

地域代表	三嶋 勉 様	深津 浩 様
	奥瀬 勇作 様	
父母教師会代表	藤井 浩久 様	

3 協議内容

改善策① 「基礎的な知識や技能の習得とコンピュータの活用についての取組を充実させる。」

- ・全国学習状況調査の結果がよいことなど、成果が生まれていることがわかる。あおいタイムの新設や、くすのきの日の授業参観等で、学校の取組を保護者に伝えるようにしていく必要がある。
- ・常に問題意識をもつことが大切であり、改善しようとする努力が大切である。
- ・アンケートの結果等数値ばかりに気をとられるのではなく、将来を見据えた教育の方向をしっかりと見据え、どっしりと教育活動に取り組んでほしい。

改善策② 「子どもたちの基本的生活習慣と規範意識を育む。」

- ・子どもと教師の意識の差が見られる。判断の基準が違うのではないか。生活を振り返る場をもつなど、子どもに理解を促したうえで、自己評価できるようにしたい。そのうえで、今後の生活に生きるような指導をしたい。
- ・学校だけでなく、家庭との連携も必要である。昨年から、PTAのボランティアの方々と子どもとがいっしょに大掃除をした。よい機会となったので、今後も家庭との連携をとっていきたい。
- ・質問項目3「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答が、教師・保護者・児童ともに多いことが大変うれしい。基本的生活習慣と規範意識を向上させることを努力しつつ、質問項目3の数値が、いつも高い結果が出ることを望んでいる。

改善策③ 「子どもたちの安全のために、学校設備や教室環境を整える。」

- ・新体育館の中の設備が、不十分と聞く。大学にもしっかり要望し、子どもの活動が活発なるよう整備して行ってほしい。
- ・子どもが安心・安全に通うことができないと考える人がいるのなら、学校が一番に考えなければならない項目であり、その根拠を明らかにしていかなければならない。
- ・今後も子どもたちのために、施設・設備の充実を図って行ってほしい。

4 学校関係者評価を受けての具体的な方策

【改善策①について具体案】

- ・あおいタイムの充実及び、授業でも基礎的な知識・技能を定着させる時間を確保するよう努める。
 - ・本校の研究成果を披露する授業のみならず、あおいタイムや基礎的な知識・技能を定着させる授業も学校公開日等で公開する。
 - ・全国学力状況調査で良い結果が出ていることを保護者会の場で説明する。
 - ・コンピュータをひとり調べで活用するだけでなく、一斉指導のなかで活用する場をもつ。
 - ・授業参観等でコンピュータを活用する授業を公開する。
- 以上にあげた改善案を実行化し、ねばり強く取り組む。
- 子どもの将来を見据えた教育活動を推し進めるために、教師一人一人が常に教育目標に立ち返り、指導にあたる。

【改善策②について具体案】

清掃活動等、学級で自分の取組を振り返る場をもち、めあてを各自がもてるようにしたり、役割分担を明確にしたりするなど、学級活動の場を生かす。

教師は、根気強く指導にあたりたい。

また、清掃時間については、環境委員会を中心に清掃道具の点検や整備を行い、あいさつや道具の片づけ等は、執行委員会、運動委員会の場で話題にし、児童の自主的な取り組みも促す。

【改善策③について具体案】

施設、設備については、学校評議員会後、すぐに安全点検を行った。5・6年の下駄箱上の屋根の補修については、すでに工事のお願いをし、現在改修中である。(11月18日現在)

今後も、安全点検を定期的に行いながら、安心・安全にかかわる児童・保護者からの情報に対して素早く対応することと、危機管理意識を常に全職員がもち続けるように、職員会議・朝の打ち合わせ会等でお互いに話題にしていく。